

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1272201912		
法人名	特定非営利活動法人 グループホーム陽だまり		
事業所名	グループホーム 陽だまり寿の家		
所在地	柏市十余二254-136		
自己評価作成日	平成22年3月6日	評価結果市町村受理日	平成22年5月21日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	平成22年3月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

高齢者が大切にしてきた日本古来の風習や四季折々の時節に合わせた行事等を重んじ、家庭的な雰囲気の中で共に楽しみながら、季節感を味わえるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の理事長が地域住民であり、近隣住民とは馴染みの関係が築かれている。地域行事には積極的に参加していると共に、ボランティアの来訪が数多くあり、外部との交流を盛んに行っている。事務長が柏市グループホーム連絡会の副会長を務めており、連絡会にて行なわれる勉強会や合同行事を通じて、入居者・家族・職員間の交流が行われている。職員は、家庭的な施設作りに努め、「してあげるケア」ではなく、「一緒に過ごすケア」の実践に取り組んでいる。また、入居者の希望に応じた柔軟な個別ケアを行い、入居者の生活の活性化を図っている。同一法人の経営する「グループホーム陽だまり」とは徒歩5分程の距離にあり、施設同士の交流や、重度化した場合、「陽だまり」と連携するなど、グループとしての利点を生かしている。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)		項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
			2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんど掴んでいない		
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
			2. 数日に1回程度ある		
			3. たまにある		
			4. ほとんどない		
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
			2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない		
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
			2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない		
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
			2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない		
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
			2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない		
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が		1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
			2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+Enter)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	採用面接時に説明し、その後はミーティング等で確認している	「してあげる」ケアから「一緒に過ごす」「地域と一緒に穏やかに」という地域との関わりを主軸にした施設独自の理念を掲げている。リビングに掲示しており、全職員に周知徹底を図っている。	理念・方針は、ホームページやパンフレットに掲載されているが、職員への浸透は十分とは言い切れない。会議、日々の業務において職員に対し理念の確認を行い、共有し、実践に繋げるためにも、プログラム化する事を希望します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	普段から利用者と共に挨拶等声かけし物産交換等も行い、可能な限り地域の行事に参加している	近隣住民と声掛けをし合ったり、挨拶を交わす等、馴染みの関係が築かれている。お祭り等の地域行事には積極的に参加しており、地域との交流を深めている。地域ボランティアとの交流も活発に行われ、中学校の職場体験の受け入れ等、地域貢献にも努めている。施設の庭で開催されるバーベキュー大会等、地域住民との交流の場となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター講座等の開催をし町会の方々にも参加を呼びかけている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者からの率直な意見等を尊重している	運営推進会議は同法人が運営する「グループホーム陽だまり」と合同で、地域包括センター・地元住民・民生委員・家族代表を構成員とし、年3回開催されている。会議では施設の活動報告や質疑応答を行い、施設理解の促進に努めている。また、地域住民からの情報提供受け、サービスの質の向上に活かしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市内同業者と連絡会を組織し役員となっているため連携は密である	事務長が「柏市グループホーム連絡協議会」の副会長を務めているため、市の担当者達と定期的に情報交換が行われ連携が図られている。柏市の公式ホームページにグループホーム連絡協議会のホームページリンクを張る等、市からの協力も得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止研修等を受講し取り組んでいる	身体拘束廃止に向けた研修に参加しており、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。また、日中は鍵は施錠せず、入居者の自由な生活を支援している。入居者が外に出た場合には、職員が付き添い、本人の意向に添った支援を行っている。	身体拘束排除の研修は、外部研修で行っているが、一部の職員しか受講していない。マニュアルを整備すると共に、その研修内容が他の職員へ伝えられ、日々の業務に生かされるような仕組みづくりを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	連絡会から市の虐待防止委員会の委員を出し皆で共有している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括ネットワーク会議等に参加し他業種の方々と連携し必要と思われる方にはアドバイスをしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	早急な契約はせず十分理解が得られ納得された上で契約している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	さり気無い会話等から聞き取ったり、運営推進会議に参加してもらい反映させている	少人数のグループホームのため、利用者の家族との連絡は密に行われており、面会時や電話等で意見や要望を確認している。家族が定期的に施設に来訪してもらうよう工夫し、家族との会話の機会を多く設け、意見収集の環境作りに努めている。挙げた要望・意見は運営に反映させ、サービスの質の向上に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度ミーティングを行っている、またOBが相談役となり職員の意見を吸い上げている	日々の業務や会議等で、職員から意見や提案を汲み取っている。また、法人のOBを「相談役」として就任させ、職員とコミュニケーションを取りながら、職員の意見や思いを引き出す等、意見の出しやすい環境作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人材は財産と考え努力に報いる処遇には最大限の努力をしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	連絡会として研修の機会を作り参加は勤務日程を調整して確保している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内同業者と連絡会を組織し互いに切磋琢磨している		

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○ 初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談は主に家族からであるが本人の要望は可能な限り受け止めている		
16	○ 初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談は主に家族からであるので本人以上に時間をかけて対応している		
17	○ 初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な契約を求めるのではなく現状に合わせた他のサービスの情報提供等助言している		
18	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に過ごすという理念の下個別の暮らし方に沿う様努力している		
19	○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは常に介護の両輪であり一緒に支え合う旨話し合っている		
20	(8) ○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る限りの取り組みをし面会等は制限せず行っている	面会・来訪・手紙等にて馴染みの人達との交流ができるように工夫している共に、本人の希望に応じ、墓参り等の馴染みの場所に出掛けるなど、馴染みの関係が継続できるよう支援している。家族との外出は自由となり、家族間の楽しみも支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	少人数なので難しい面もあるが最大限の努力はしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	押し付けにならない範囲で行っている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症の進んだ利用者は大変難しいが出来得る限りの努力をしている	入居時に本人・家族から生活歴や意向等の情報収集を行っている。入居後は日々の利用者の行動観察・傾聴にて希望や意向の把握をしており、入居者のニーズにや意向に添った支援が行えるよう努めている	入居者の過去から現在の生活状況・心身の状態・希望・意向に至るまで一人ひとりの情報を一元化し、記録することにより、全職員が情報を共有し、入居者の意向に合わせた支援が行えるような取り組みを期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族等の協力を得ながら努力している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の好みやADL等状況に合わせて工夫している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ミーティングを行い話し合いの上作成している	本人・家族の意向をもとに、担当職員が介護計画を提案し、計画作成担当者が介護計画を作成している。毎月評価や目標達成状況の確認を行い、介護計画の見直しを行っている。また、職員全員で意見やアイデアを出し合い、現状に即した介護が出来るよう努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	些細な事でもノートに記載し情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の協力の下可能な限り行っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの協力により支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携契約を結んだかかりつけ医に全面協力支援を得ている	希望するかかりつけ医への受診が可能となっている。2週間に一回、かかりつけ医による往診が実施されており、適切な医療支援が行われている。また、急変時や緊急時には24時間連絡が取れることが可能になっており、適切な医療支援体制の連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤では有るが看護職員がいる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携契約を結んだ病院であるが職員も時間を見つけて面会等に訪れている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームの方針として看取りは自然体であると心得、契約時から家族と話し合い、また職員にも都度説明し共有している	重度化・終末期における方針・指針を明文化し、契約時に家族へ説明し、同意を得ている。重度化した場合や終末期を迎えた場合には、家族の意向を十分に汲み取り、施設としてできる限りの支援を行っている。過去に、7名の入居者が終末期を迎えた経験があり、重度化・終末期に向けたケアの体制が構築されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	基本マニュアルを備え対応している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自助努力に徹している、働きかけは行っているが実際その状況になった時地域の協力が得られるかは疑問	災害時のマニュアルがあり、非常時の連絡体制も作成されていると共に、消火器等を設置しており、非常災害時に備えている。職員は救命救急講習を受講している他、消火器の使用方法・避難誘導の訓練も行っており緊急時の対応を身に付けている。	施設が中心となり、地元住民や地域消防団等に呼びかけを行い、災害時・緊急時における問題点を挙げ、問題解決に向け協力体制を強化することを期待します。また、地震被害の軽減に向け、台所・食堂の食器棚を固定する等、施設独自の取り組みも期待します。
、その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	異変を発見した時には速やかに情報を共有し適切な対応を施す	個人情報保護及び取り扱いの方針を掲げ、家族に同意を得ている。個人情報は事務所に保管し、個人情報保護に努めている。入居者に対しては生活歴や性格に合わせた対応・接遇を心掛けている。「ダメ・あとで」等の言葉掛けをしないよう徹底し、入居者らしい生活を支援している。	外部研修の研修内容を全職員に公開すると共に、勉強会の資料をマニュアルの一部として活かし、全職員の接遇・介護サービスの質の向上に取り組むことを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症であっても心は生きているという事を肝に銘じて行っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時にはこちらからの誘導を待っている場合もあるので上手く使い分け接している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時等は個人の生活習慣に合わせたおしゃれが出来る様支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好みやADL等状況に合わせて行っている	本人の能力や希望に応じて、食事の準備・調理・片付け等、積極的に関わってもらうように工夫している。嗜好や意向を汲み取り、日々の献立に反映させ、希望に応じた食事提供を行っている。また、外食会や行事の際の「特別メニュー」等により、バラエティーに富んだ食の楽しみを提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の好みやADL等状況に合わせて行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは大切と心得各自の力量に応じ行っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄は何より大切な事なので工夫し努力している	排泄チェックリストを活用し、個々の排泄パターンを把握しており、声がけ・トイレ誘導により、できるだけオムツやパットの使用を少なくするよう支援している。また、夜間においては、トイレ誘導を行い、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	高齢者の便秘は大敵と心得予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	楽しみの一つであるので昼夜問わず希望に添う様している	回数や時間帯等を決めず、入居者の希望に応じて柔軟な支援をしている。入居前の生活習慣を把握し、一人ひとりの生活リズムに合わせて好みに応じた入浴を支援している。職員の見守りにより、自分のペースで安心して入浴ができるように配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて見極め促す事もある		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ薬局があり症状の変化には十分注意し場合によっては主治医とも相談している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割は大切であり、個別に気晴らしを行い本人も満足する様支援している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○ 日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望は固より天候に合わせ行っている	天候や本人の健康状態に応じて、散歩等の外出支援は毎日行われている。月に1回以上買い物等の外出を企画・実施しており、戸外での楽しみを支援している。柏市グループホーム連絡会にて、花見・コンサート等が企画されており、積極的に参加している。	
50		○ お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知度に応じ出来る間は自由に行っている		
51		○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族には迷惑のかからない範囲(時間帯等)で自由に行っている		
52	(19)	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ハード面では限られてくるがソフト面に於いて工夫している	民家改修型の特徴を活かし、入居者にとって馴染みある暖かな施設造りがなされている。居室・食堂・リビングは日当たりが良く、穏やかな時間を過ごせる空間となっている。壁面には入居者が作成した作品や行事の写真が飾られ、職員と入居者が楽しみを共有できるよう工夫している。	転倒等の事故予防の観点から家具の配置を工夫し、入居者の安全に配慮した工夫を期待します。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○ 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られた空間の中で出来る限りの工夫をしている		
54	(20)	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の希望通りに配置している	入居者の希望に応じて馴染みの家具等を持ち込む事が自由になっており、仏壇を持ち込む等、馴染みの生活継続を支援している。居室は十分な広さが確保されており、家族や親せきが泊まることができ、急変時や終末期等の対応が可能となっている。	
55		○ 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個別のADLに合わせて随時工夫している		